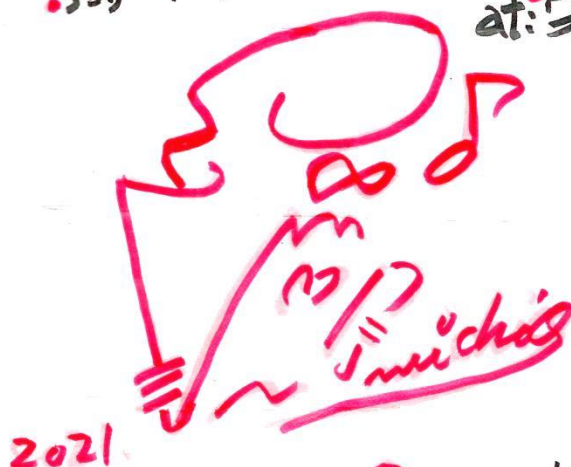


我が心のプロフェッショナル

和田道雄の
世界
at:「和」

和がな楽しい
コンサートです



2021
12/12<日> PM: 2:00 ~ <1:30開場>
・於: NPO法人「和」なごみ> 入場料: 2000円、
地域割: 1000円
TEL: 06-6308-5416
・淀川区十三東3-17-12、
・十三駅東口商店街のヤードと東へ20分
・神戸・津神社から北へ徒歩1分 立木の脇... (7分40秒)

～和田道雄プロフィール～

昭和26年2月8日生まれ
昭和43年9月、英国レスター市開催第12回C・I・A世界アコーディオンコンテストにて銅メダリストとなる。(16歳高2の時)
18歳ニューヨーク留学(約2年)
アコーディオンをアンソニーメッカ氏に、作曲をニューヨーク大学のジョセフ・シアニ博士に学ぶ。
帰国後主に教育関係400校で演奏、
その中で、ワダミチオアコーディオン教室も開設、現在に至る。
自主コンサートも18回を数える。主に東京、大阪、山口(下関)、長野(岡谷)他、地方コンサートも多数開催。
来春、プロとして50周年を迎える。

※プログラムより転記

当日演奏曲目(変更あり)

- ♪ エーデルワイス
- ♪ 茶色の小びん
- ♪ 「安来節」
- ♪ 花...
- ♪ イエスタデイ
- ♪ マイ ウェイ
- ♪ いとしのエリー ほか...

一わだみちお作品より

- ♪ プロローグの森
- ♪ パリ解放のマーチ
- ♪ マチス ほか...

和田道雄氏は今年アコーディオニストとして 50 周年を迎えます。

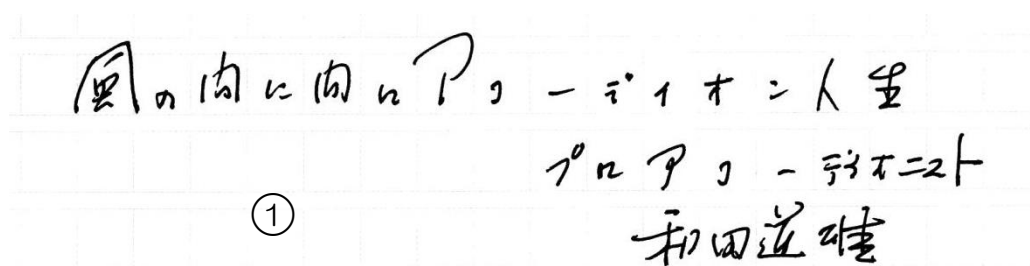
昨年の中頃、和田道雄氏から電話を頂きました。思いがけない方からでしたので少々長話になって和田氏がアコーディオンを始めた頃の思い出をお聞きしました。

そこで、私は関東アコの広報部として「機会があればニュースで紹介させていただくことは出来ないだろうか」と電話の中で伝えておりました。

そのことを記憶に留めていてくださって、その後、「C・I・A 世界アコーディオンコンテストで入賞した 1968 年以来今までジャバラを開閉してきた人生を振り返るタイムリーなものになる予感がする」と、また「わたしを知っていただくチャンスにもなるし、これからのアコーディオンのビジョンを分かりやすく伝える糸口にさせていただけそうだ」との手紙を頂きました。

そして、昨年 12 月 12 日にコンサートを開いた報告と一緒にプロフィールに合わせたように、英国でのアコーディオンコンテストへの参加や米国留学の様子を書かれた原稿を頂きました。

以下、届いた寄稿文です。題字は和田道雄氏（数字は編集部で挿入）



私は、大阪在住の日本では数少ないプロアコーディオニストです。16 才高 2 の秋、英国レスター市開催第 12 回 C・I・A 世界アコーディオンコンテストで運良く銅メダリストと成りました。そして、その折のピエトロデイロジュニアさんからの進言を頂いてニューヨークへの留学の道も開かれました。

生家は、大阪商人、焼き麴の老舗、市場にも店を持ち約 100 年の「麴梅」商店の 4 代目として生を受けました。ところが小学校入学が昭和 34 年、リード合奏華やかかりし頃でしたのでまづハーモニカ、そしてアコーディオンへと進みました。

日本での師は服部隆次、お兄さんの安之助さんの後を継がれての教室でした。先生は、幅広いジャンルからのアプロー

チを持っておられ特筆すべきは音色の扱い方に秀でておられましたので年 2 回の春と秋の発表が待ち遠しかったのを覚えています。

話は私の小学生時代に戻りますが、関東でも人気のあった TBS 系ラジオの「子共音楽コンクール」の独奏、重奏の部で中学 1 年時に全国一位とならせて頂きました。

そしてアコーディオンに対しての気持ちがいよいよ強くなってきました。そして高校入学してから半年の頃に世界チャンピオンのドナルドヒューム氏の演奏にふれ、東京オーディオアコーディオンの桜井徳二先生のご尽力を賜り英国レスター市でのコンテストへの出場が実現する運びと

なりました。

コンテスト当日は、早朝 8 時よりまず初見、そして課題曲、そして自由曲となります。私の自由曲「ハンガリアンファンタジー」の演奏は夜 10 時を少し回っていました。このコンテストにはフランスの名手ガリアーノ氏も出場して居られました。この C・I・A のコンテストは世界中の奏者のプロへの登竜門のような意味がいまでもあります。

ニューヨークへの道を開いてくださったピエトロさんはアコーディオンのパイオニアの 1 人ピエトロディロさんの一人息子さんでニューヨークに出版社を持ち事実上の全米のアコーディオン界のドンでありました。

昭和 45 年のニューヨークは若者のエネルギーがすごかったですし反戦を音に託したロックミュージックやフォークソングもブーム、一方、カーペンターズ、

ビリー・ジョエル、スティーヴィー・ワンダーが全盛でした。留学中のラジオからの音楽が私の教則本でもありました。

それとアコーディオンの師メッカ先生も作曲のシアーニ博士もイタリア系であったので今の私の明るい性格の原点でもあるように思えます。

私自身、色んな方面で良き人々に出逢う事が叶い昨年の 12 月で 70 才古希を迎えました。

16 才で世界レベルを知り得、18 才でアメリカをそれもビッグアップルとも呼ばれたニューヨークを肌で感じる事が出来。どちらかと言えばモダンな音楽を特に、ジャズアコーディオンが好みそしてオリジナル曲の創作が身に合っていますので、いささか日本の従来のアコーディオン愛好家の方々とは異質であると思われませんが、そちらの方に興味の有る方々には今後ともよろしくお願い申し上げます。

令和 4 年 正月 1 日 午後 1 時

和田先生
和田先生

編集部からお知らせ

今回届いた「①」の話をもとにした、その都度その都度の和田先生の小文「風のまにまにアコーディオン人生」がこれから時折載りますのでどうぞ続きをお楽しみください。